

ベキトル?!

ある日、会話の中で「やっぱりベキトルやね」という言葉が出てきました。「ベキトル? それって何ですか?」と尋ねると、「それはね、〇〇すべきをトルことだよ」という答えが返ってきました。なるほどと妙に心に残りました。

日頃の生活の中で、「〇〇すべき」とつい口に出すことがあります。「親なんだから〇〇すべきだ」「先生だから〇〇すべきよ」「子どもなんだから〇〇すべきだ」と次々に出てきます。

でも、そのように相手に対して〇〇すべきだと考えると、そのことがなされないときにはできていないとかまだ不十分だとかというマイナス面ばかりが目についてしまいます。もちろん自分に対しても〇〇すべきという思いが強いと、そのためにどこかで無理をしてしまったり、できない自分を不甲斐なく思い気持ちが落ち込んだりします。

理想は高くあっても、今できることを認めていくことから始めるといいかなと思います。日常の会話からベキという言葉をもう少しなくしてみると心がちょっと楽になるかもしれませんね。(鈴木)



「6日と23時間のために」 ～定期通所相談でのかかわりから～

総合教育相談センターには適応指導教室がありますので、月曜から金曜日までの毎日、市内のあちこちから不登校傾向のお子さんが通ってきています。しかし、この他にも週1回だけ曜日を決めて定期的にセンターへ通ってくるお子さんたちがいます。

「そだち」という子どもの集団には参加できないものの、大人となら逃げ出さずに何とか場を共有することができるAさんは現在小学校の4年生です。友だちに頬の紅さをからかわれたことがきっかけで2年生の3学期から現在まで不登校の状態が続いています。

母親に連れられて定期通所を始めた当初、Aさんは自分から話すことは全くなく、女性の担当指導員からの問いかけに僅かに首を振ることでYES・NOを表現する程度の表出しかありませんでした。しかし、その指導員に見守られながら毎回「箱庭」を繰り返し作り続ける中で「学校に行きたくても行けない」自分の苦しさを砂の上に表し、少しずつですが元気を回復してきたように思われます。時には攻撃的な言動がその過程の中に見え隠れしますが、守られた場の中で安心して自分のこころのありようを表現しているようです。

チョットやってみませんか

ショートエクササイズ VO.1 ー質問じゃんけんー

ねらい：友だちのことをよく知り、集団の構成メンバーを肯定的に認め合える雰囲気作りをめざす。

内容：二人組を作り、じゃんけんをして勝った方が負けた方に質問する。相手を変えて数回行う。



3つの約束

- ・相手を困らせない質問をする。
- ・分からないときは「分かりません」と答えていい。
- ・分かりやすく、しっかり答える。

*参考文献：「エンカウンターで学級が変わる」(小学校編) 図書文化



(発行者) 金沢市総合教育相談センター
所長 澤井 弘
〒920-0852 金沢市此花町2番7号
TEL(224)0874 FAX(263)7830
kyouiku_so@city.kanazawa.ishikawa.jp



適応指導教室「そだち」の野外活動

平成14年5月10日発行

私(たち)に任せてください



金沢市総合教育相談センター 所長 澤井 弘

NHK大河ドラマ「利家とまつ」でまつが利家の危機に際して口にする「私にお任せくださりませ」というセリフがあります。これを聞いた利家は活気、明るさ、安堵の表情をうかべます。

昨年度末近くに狭心症の疑いで検査入院をしました。約3週間の入院生活でしたが元気で働き続けた自分にとってこのように長期にわたる仕事からの休業は初めての体験でした。多くの検査の結果より最終的には心臓カテーテル検査をすることになりました。その検査をすると聞いたとき、自分の先輩がこの検査を受けたときの話が思い出されました。そして検査そのものに対する不安や、その結果異常があったときの処置、手術等の苦痛を自分なりに想像してどうしようもないくらい気分が落ち込みました。恥ずかしい話ですが自分が仕事のことで多くの仲間に多大な迷惑をかけていることや、家族の皆に心配をかけていることなど全く頭の中に浮かばなくなりました。今になって思い返すと自分が受けるであろう苦痛やこれからの先の生活等について全く自己中心の見本のような状態になりました。他のことはさておき自分のことで精一杯の状態でした。その時にこの検査にあたって家族全員が担当医と実際に検査を担当する医師から心臓の模型を使って実に分かり易い説明を受ける機会が持たれました。この検査の目的(私の場合は冠動脈と心室の筋肉の状態を調べる

こと)、検査結果得られる情報について実際の映像を何枚も使った詳しい説明を受けました。さらに検査の結果から考えられる処置についても十分すぎるくらいの説明を受けました。また検査中に体験するであろう感覚や、私がもっとも気にしていたこの検査の危険度についての説明も受けました。私一人の患者のために担当医、検査をする医師、最悪の場合に備え心臓外科医や看護師でチームを組んで取り込むという説明に私は最も安心しました。

医学の知識に乏しい患者や家族が病気について抱く悩み、苦痛、不安を優しく受け止め納得できるまでの分かり易い説明は身に沁みて有難く感じると同時にとても安心できました。また自己中心にならざるをえない患者の身勝手さも実際に体験することで理解できました。そして最終的にスタッフ一同が私(たち)に任せてくださいという受け入れ態勢で患者に向かい合ってくれたことにとっても感動しました。

相談担当者(機関)や教師(学校)が、悩みや不安で自己中心にならざるをえない来談者を受け入れたり、様々な要求や欲求をもち時には不安やストレスに押し潰されそうになっている児童生徒を受け入れる時にどの程度「私(たち)に任せてください」といえる準備ができているかを気付かせてもらえたような気がしてなりません。

学級に 学年に 学校に 気になるお子さんはいませんか？ 成長の支援の方向をいっしょに考えてみませんか？

今年度も教育相談部門では、不登校や社会的不適応など様々な表れを見せる一人ひとりのお子さんに視点をあて、学校と連携し、より一層教育相談の充実を図ります。



*昨年度行われた各学校との連絡会内容・テーマ

全体研修会 (小：構成的グループエンカウンター、ロールプレイ演習、児童虐待対応と理解、ソーシャルスキル演習、LD・ADHDの理解と支援 他)
(中：構成的グループエンカウンター、悩み調査分析と生徒理解、応答構成法「生徒への一声」)

事例検討会 (小中：集団不適応、不登校 小：発達障害、緘黙、学級経営 中：問題行動)

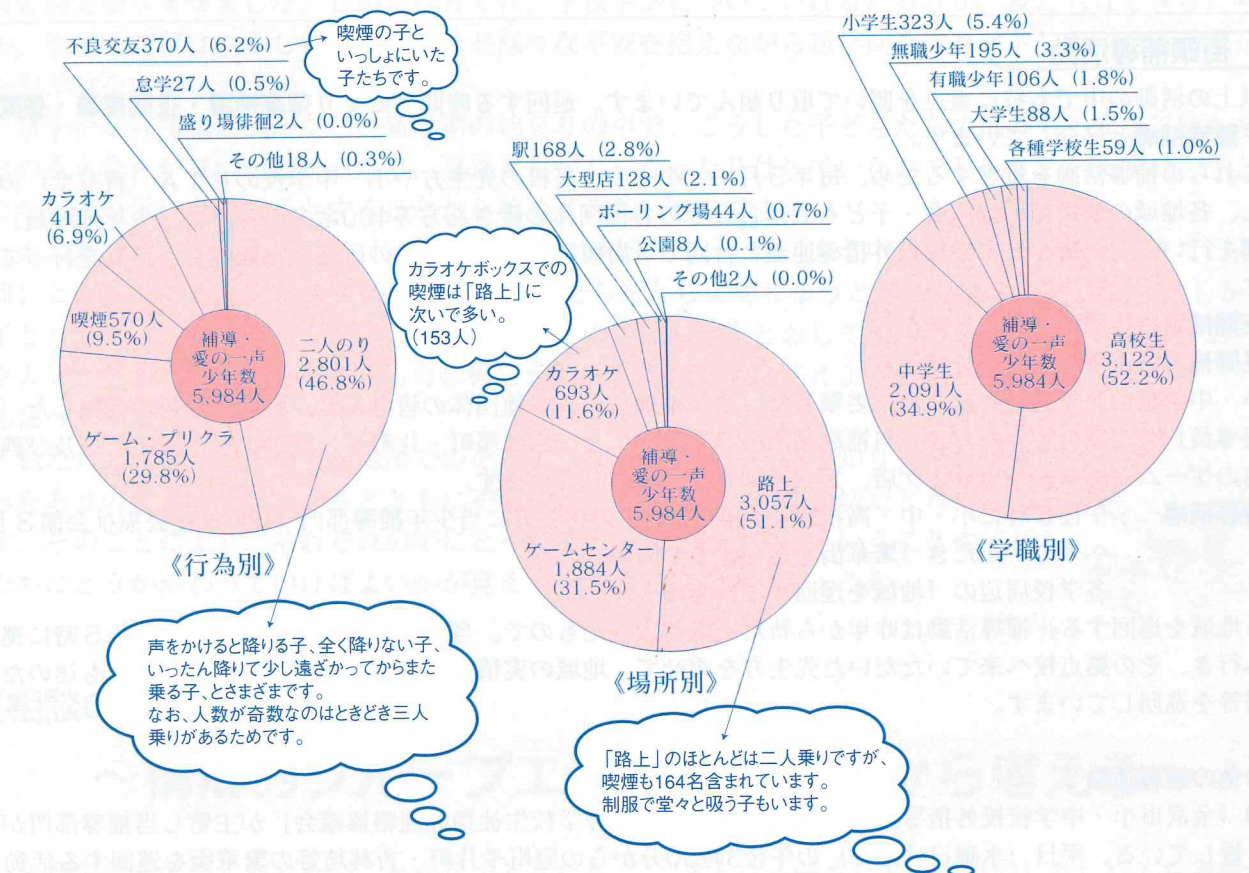
情報交換会 (小：学校の現状、センター活動紹介、学級経営 中：センターにかかわる子について)

相談体制検討会 (小：相談のすすめ方、相談体制のあり方、月目標)
(中：別室登校生への支援、長欠生徒への支援、相談部の悩み、教育相談のあり方、月目標)

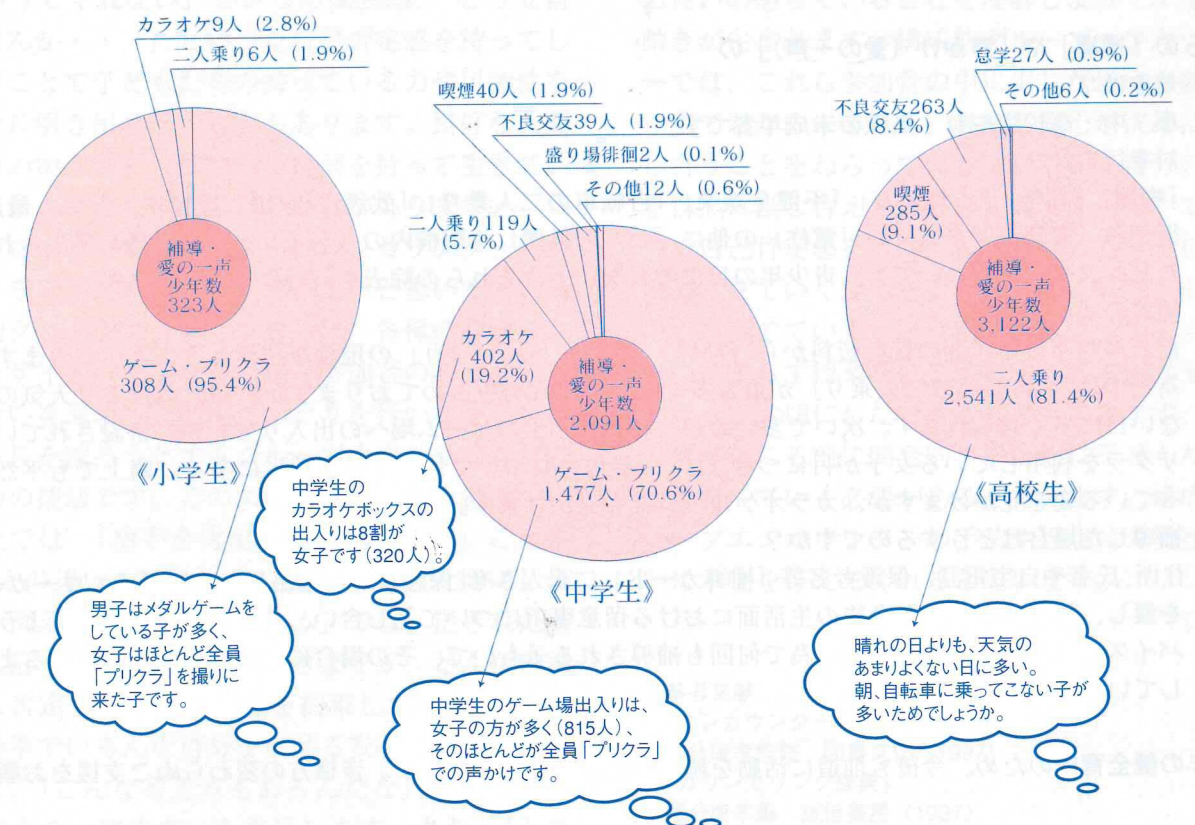
今年度も各学校のニーズにお応えできるよう皆さんと一緒に考えていきたいと思います！

平成13年度(13年4月～14年3月)の補導・「愛の一声」状況

(1) 補導・「愛の一声」少年の行為別・場所別・学職別の概況



(2) 小・中・高校生の行為別状況



街頭補導活動について

少年補導部門では、家庭・学校・地域社会と密接な連携をとり、明るく住み良い環境づくりを推進し、青少年の健全育成・非行防止に努めるために、街頭補導活動・環境浄化活動・地域連携活動・非行防止啓発活動等に取り組んでいます。

街頭補導活動

以上の活動の中でも特に重点を置いて取り組んでいます。巡回する時間帯により**薄暮補導・夜間補導・昼間補導・随時補導**と区分しています。

これらの補導活動を推進するため、毎年5月に、小・中・高校の先生方や小・中学校のPTA（育友会）の皆さん、各地域の公民館や婦人会・子ども会連合会等の各種団体の皆さん方等400余名の方々に「少年補導員」の委嘱を行い、金沢市小・中学校校外指導連盟と合同で「街頭補導」についての研修会を開催し、活動を行っています。

※**夜間補導**…金曜日の午後7時から

※**昼間補導**…土曜日の午後2時から

小・中学校のPTA（育友会）に委嘱した「少年補導員」や各種団体の皆さんと、警察本部長が委嘱した「少年補導員」のご協力もいただき、当補導部門の「補導員」と一緒に堅町・片町等の繁華街や金沢駅周辺及び西署管内のゲームセンターやカラオケ店、大型店舗等の巡回をしています。

※**薄暮補導**…午後5時に小・中・高校の「少年補導員」の先生方に当少年補導部門（石川県社会福祉会館3F）へ来ていただき「繁華街を巡回する」もの
・各学校周辺の「地域を巡回する」もの

「地域を巡回する」補導活動は昨年から新たに取り入れたもので、当補導部門の補導員が車で午後5時に拠点校へ行き、その拠点校へ来ていただいた先生方を乗せて、地域の実情に応じて、裏通りや公園、子ども達のたまり場等を巡回しています。

その他の補導活動

- 「金沢市小・中学校校外指導連盟」及び「金沢地区高等学校生徒指導連絡協議会」が主管し当補導部門が支援している、平日（水曜日は除く）の午後3時30分からの堅町や片町・香林坊等の繁華街を巡回する活動
- 当補導部門の補導員のみで行う平日の午前や午後、繁華街や郊外、JR沿線の駅構内やその周辺を巡回する補導活動

これらの「補導」や「声かけ（愛の一声）」の

Q. 対象は？

A. 小・中・高校生や有・無職の未成年者です。

Q. 対象行為は？

A. 「喫煙」「怠学」「不良交友」「不健全娯楽」「自転車の二人乗り」「飲酒」「家出」等です。なお、最近は、街頭の「電話ボックス」や「電柱」の他に「ビルの外壁」や駅構内の「トイレ」等、所構わず張られているピンクチラシについても、青少年の目に触れないようそれらの除去も同時に行っています。

Q. 補導の状況は？

A. 前頁の昨年度1年間の統計資料から「補導・声かけ（愛の一声）」の現状を読みとることができます。行為別では、「自転車の二人乗り」が最も多く高校生が大勢を占めておりますが、晴れの日より天気の良い日に多く見られます。次いで多いのが、小・中学生のゲーム場への出入りで、特に併設されているブリクラを利用している女子が目につきます。「喫煙」についてはやはり高校生に多く、路上でも平然と吸っている姿を見かけますが、カラオケルームでも見かけます。

Q. 補導した場合はどうするのですか？

A. 住所、氏名や自宅電話、保護者名等「補導カード」に記入させ、保護者への連絡用として「イエローカード」を渡し、後日、保護者と今後の生活面における留意事項について話し合い、その子が立ち直れるようアドバイスをしています。同じ行為で何回も補導される子もいて、その場合には当該校へも通報するようにしています。

青少年の健全育成のため、今後も地道に活動を続けていきたいと思っています。皆様方の変わらぬご支援をお願いします。

今こそ、子どもに寄り添うということ

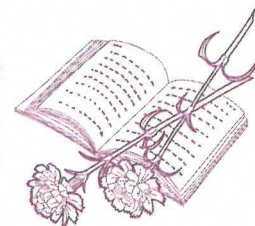
新しい学年が始まって一か月余りが過ぎました。子どもたちは、新しい学校や仲間との出会いに、期待に胸を膨らませました。しかし一方では、学校生活についていけるだろうか、友だちはできるだろうか、先生や先輩はやさしいだろうかなど様々な不安を抱えながら新学期をスタートした子どもも多かったのではないのでしょうか。

華やかな雰囲気と慌ただしい新学期の始まりの中で、こうした子どもたちの悩みや不安な気持ちを周りの大人たちが気づかなかつたり、見落としがちになったりはしていないのでしょうか。まずは、子どもたちの姿や思いを知ろうとすることから始めてみたいものです。

大人たちは、ややもすると「一年生になったのだから」とか「もう中学生なのだから～できて当たり前」と表面的な考えだけで決めつけて子どもたちをとらえてしまうところがあると思います。しかし、子どもたちは、家族とのふれあいや様々な人とのかかわりをおして相手の思いや願いを知り、お互いを大切にしようとする気持ちをもとに何とか周囲からの期待に応えようと精一杯にがんばっているのです。

私たち大人は、いろいろな場所でのそのような子どもたちの姿を知り、思いや気持ちをありのままに受けとめるとともにその背景を洞察することが大切だと考えています。そのことにより、それぞれの子にとって今必要なことは何かということや子どもたちにどうかかわっていけばよいかが見えてくるのではないのでしょうか。

（竹内）



【相談の基礎Ⅰ】

～構成的グループエンカウンターから考える～

人間関係を上手く作れないことから子どもたちには様々なトラブルが起こります。「誰も自分を分かってくれない」といった孤独感、「どうせ自分なんか・・・」といった自己否定感を持ってしまうことで子どもたちの持っている力や可能性を十分に引き出せないこともあります。良好な人間関係の中で子どもが自分に自信を持って生きていけるような心を育てていく必要があります。

ここでは「構成的グループエンカウンター」から、その事について考えてみたいと思います。構成的グループエンカウンターは、各種の課題（エクササイズ）を遂行しながら参加者の心と心のふれ合いを深め、人間関係づくりを行いながら自己の成長を図ろうとするグループカウンセリングの1つの技法です。このエンカウンターを進めていく上では、「相手を肯定的に受け止める」ことや「考えの違いを認めあう」ことなどを大切にします。例えば「自己紹介ゲーム」では、出された課題に沿って自己開示していきますが、どんな内容でも否定せずに聴くことを約束して実施します。その中でいろんな自分を出せる安心感を持つとともに、「こんな考え方もあるんだな」という自他の考えの一致や違いを発見します。また、「トラ

ストワーク」という目隠しをした人を誘導するエクササイズでは、非言語の自己開示をする中でお互いの感じていることを理解しようとする心の動きが生まれます。構成的グループエンカウンターでは、これら参加者の中に生じた思いを聴きあう中でお互いに尊重し、参加者同士が次第に理解し合うことをねらっています。そして自分の思いを自然に出し合える良好な人間関係を築いていく中で自己肯定感を育み、最終的には自分で自分を成長させていく能力を育てます。これは、子どもの心を育てていくという観点からは、エンカウンターに限らず授業をはじめとする教育活動全般にわたって大切にしたい考え方とも言えます。

何か起こる前に開発的・予防的に子どもたちの心を育てていく必要があると考えます。構成的グループエンカウンターの手法や思想は、私達に大いに示唆を与えてくれると思います。

（篠原）

*参考文献
「エンカウンターで学級が変わる」
國分康孝監修 図書文化（1997）
「カウンセリング辞典」
國分康孝編 誠信書房（1997）